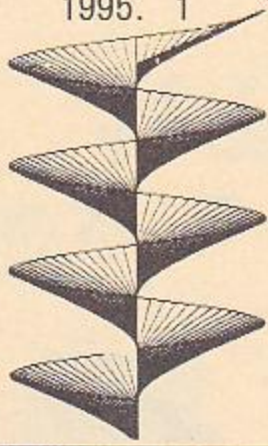


1995. 1



# おひるにくす

No. 36

大阪工業大学図書館報

## 「氏より育ち」

応用化学科 教授

飯田 健郎



終戦後間もない私の少年期。今の皆さんには想像できないほど食べ物が無かった。さらに、私は山奥の百姓の生まれ。海の魚が食べれるのは月に一回あればいいほうで、牛肉にありつけるなどという好機は年に数回しか無かった。

農繁期は、早朝、田畑へ出掛け、夜になって家へ帰ってくる生活である。そこで、昼食は田畑の畦でとることになるが、弁当だからと言って別にたいした食物がある訳ではない。ジャガイモの田楽とか沢庵などなどである。労働の後は何を食べてもおいしいが、たまに、塩サバの焼物でもあろうものなら、それを目的に勇躍手伝いに出掛けたものである。

世の中が豊かになってきた時に、食べ物に苦勞した少年期の反動か、高級(?)な食べ物に憧れた時期もあったが、今は、田楽とか塩サバなどが無性に食べたくなることがある。歳をとるに従い、「育ち」が隠せなくなることを実感して、苦笑している次第である。

当時の農村には娯楽施設が全く無かった。満足なラジオも無かった時代である。だから、夜は何もすることが無い。加えて、農家の小伴に学歴は無用ということで、受験勉強などをする



打席に立つ飯田教授(1969年学科の野球大会)

必要も無く、時間だけはいっぱいあった。

幸か不幸か私の家にはたくさんのお本があった。私の祖先は、学歴は無かったようであるが、勉強は好きだったようだ。そこで、暇に任せて読みまくった。意味の分からない本は後回し、読める本から時間潰しに読んでゆく。乱読もいいところである。昼間は畑仕事の手伝い等々で忙しいが、夜は読書三昧。少年期から晴耕雨読の生活を楽しんでいた???

先号の本誌に、櫻井学長が「ジャン・クリストフに深い感銘を受け、これで人生の目標を見つけた」と書いておられた。私もこの小説に深い感銘を受けた一人である。この曙Ⅲに、クリストフと叔父のゴットフリートとが川岸を散歩する情景が描かれている。ここで、作曲を志している主人公に、叔父さんが「お前が作る音楽より、自然が奏でる音楽がずっと素晴らしいではないか・・・」と諭す場面があるが、この情景は高校1年の私に強烈なインパクトを与えた。

思いがけず、好きな自然科学にかかわるようになったが、現象を素直に観察することだけは心掛けてきた。お陰でエキサイティングな発見ができた幸も味わえたが、これも一重に、一連の乱読から受けた啓示によるものと思われる。

趣味、嗜好は青少年期で決まる。ファーストフード、インスタント食品のみで青少年期を過ごした人は気をつけよう!!速効性の肥料よりも、遅効性の肥料を辛抱強く施すほうが作物の実りは良いようである。百姓の小伴が言うから間違いは無い。

(高分子材料専攻 工学博士 徳島県出身)

10  
210



# よしなしごと

土木工学科3年次 小田 智 永

「～図書館の者ですが（始めの部分は聞きとれなかった）、原稿をお願いできますか。」— 11月5日の出来事である。「原稿依頼」と聞き、私はすっかり作家気分になり、身も心も舞い上がっていた。当然、その後の電話の内容など「作家」の私には、全く聞こえておらず、ハイハイ言っているだけであった。

作家になったからには、当然、「しめきり」というものがあり、私は今、それに追われているのである。図書館の発行する新聞なので本のことや、私の好きな作家のことでも書こうと思ったが、私のことなど、別に興味もないだろうから、何か別なことを書こうかと思う。

今はちょうどクリスマス前である。クリスマスソングの1つである「主はきませり」を私はずっと「シュワキマセリ」とい



う外国語だと思っていた。恥ずかしい話である。「主（イエス・キリスト）は、きませり（おいでになった？）」だったなんて……。



他にも沖縄にいるヤンバルクイナ。鳥とは知らず、母に国名だと教えられた私は、友人にヤンバルクイナという国の話をした。すると友人は「あほか。鳥やで。」— バカにされた私だが国名だと教えた母は、もっとアホだと思い、早速、「ヤンバルクイナって、国名ちゃうで。鳥の名まえやねんで。恥ずかしいなあ。」という、母は「そうや。あんた国名と思って信じてたん？」と大爆笑された。

「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」というが、こんなことになるのなら、聞かずに、そのまま一生恥をかいている方がましである。



## 脱近代の労働観

杉村 芳美 著

(ミネルヴァ書房)

長びく不況に深まる就職難。リクルートスーツに身を固め必死になって就職先を探す学生。一日の大部分を職場で過ごす自分。そんな状況の中「働く」とは一体何なのだろうと考えた。本書は、長時間労働や著しく専門化へと進む労働の分業化現象、機械化による非人間的労働の増加といった様々な局面をもつ現代社会において労働の意味を考察し、人間にとって労働とは

何かを論じたものである。最近問題とされる過剰労働＝働きすぎを著者は、本来賃金や幸福という目的を得る為の手段であった労働が、労働の為の労働になってしまった手段の目的化現象であり、終局のないサービス化した奴隷的労働だと述べている。ではその解決策を見出すことはできるのか。奴隷的でない自由な労働とはどのような労働なのか。また労働とは手段でしかないのだろうか。もちろんこの本を一読しただけで労働に対する答えを見つけることは到底不可能だろうが、これから先も続けてゆく「働く」という営みについて一度考えてみる良いきっかけになるのではと思う。 (給与課 上田)

(請求記号 366 S 第1図書室)



# '94 工大図書館分野別貸出図書ベスト3

## あなたは何冊読破した？



昨年4月から11月までの8カ月間に最もよく貸し出された、図書(ベスト3)を紹介します。「この本もう読んだ」「え～こんな本あったのか？もっとはやく教えてよ！」などという利用者もいるのでは…。中には後期試験の参考書として利用できるものもあるかもしれません。まだ読んでいない君、急いで図書館に、残念ながら試験に間に合わなかった君は、春休みにでも今年度の復習等をおかねて是非一度読んでみてはいかがかな？

### 情報関係

1. 電子計算機のプログラミング〈8〉  
FORTRAN 77 入門〈改訂版〉  
浦 昭二 著 (培風館)
2. はじめて読むC言語  
—プログラミング環境のスタンダード—  
蒲池 輝尚 著 (アスキー)
3. 画像処理の基本技法〈技法入門編〉  
長谷川 純一 他 著 (技術評論社)

### 社会科学関係

1. 作業組織の行動科学  
—モラル・モチベーション研究—  
村杉 健 著 (税務経理協会)
2. 経営のための多変量解析法  
本多 正久 他 著 (産業能率大学出版部)
3. オペレーションズ・リサーチ入門〈1〉  
線形モデル  
Wagner, Harvey M. 著 (培風館)

### 自然科学関係

1. 物理実験法  
—報告書形式による〈第2版〉—  
福本 喜繁 他 著 (槇書店)
2. わかりやすい数学モデルによる  
多変量解析入門  
木下 栄蔵 著 (哲学出版)
3. 多変量統計解析法  
田中 豊 他 著 (現代数学社)

### 土木工学関係

1. 道路橋示方書・同解説  
〈1 共通編 3 コンクリート橋編〉  
日本道路協会編 (日本道路協会)
2. わかり易い土木講座〈17〉  
海岸・港湾〈新訂版〉  
合田 良實 他 著 (彰国社)
3. わかり易い土木講座〈7〉水理  
嶋 祐之 他 著 (彰国社)

### 建築学関係

1. 鉄筋コンクリート造入門  
—設計の基本とディテール—  
岡田 勝行 他 著 (彰国社)

2. ル・コルビュジェの建築  
—その形態分析—  
Baker, Geoffrey H. 著 (鹿島出版会)
3. 建築構造力学演習  
齋藤 謙次 著 (理工図書)

### 機械工学関係

1. 機械工学実験法  
小茂鳥 和生 著 (日刊工業新聞社)
2. 新制機械工学実験実習  
機械工学実験実習編集委員会 編  
(東海大学出版会)
3. 標準機械工学実験法  
茨城大学工学部機械工学実験研究会 編  
(理工図書)

### 電気・電子工学関係

1. 入門電気計測  
大熊 栄作 著 (東京電機大学出版局)
2. 論理回路入門  
門脇 信夫 著 (工学社)
3. 実務書シリーズ〈3〉  
トランジスタダイオードの使い方  
—素子の動作と回路設計のかんどころ—  
久保 大次郎 著 (CQ出版)

### 語学関係

1. ケント・ギルバート 日本人英語の間違い  
—なぜ、通じないかどう直したらよいか—  
Gilbert, Kent S. 著 (光文社)
2. 英会話ミニフレーズ  
—まるごと使えるいきいき表現730—  
The English Journal 編集部 編 (アルク)
3. すぐに使えるお礼の手紙NEW文例集〈3版〉  
川崎 キヌ子 著 (永岡書店)

### 文学関係

1. マディソン郡の橋  
Waller, Robert James 著 (文芸春秋)
2. マーフィーの法則  
—現代アメリカの知性—  
Broch, Arthur 著 (文芸春秋)
3. 明け方の夢(上)・(下)  
Sheldon, Sidney 著 (アカデミー出版)



